

平成30年度第2回八王子市多文化共生推進評議会議事要点録

- 【日時】 平成31年2月1日（金）午後6時30分から午後8時30分まで
- 【場所】 学園都市センター11階 学生交流室・国際交流室
- 【出席者】 ◎評議員
森茂座長、遠藤評議員、岡林評議員、河西評議員、シュレスタ評議員、谷川評議員、ドミー評議員、花輪評議員、マダワラ評議員
- ◎事務局
小浦部長、新井課長、櫻井課長補佐、波多野主任、阿部田主事
- 【欠席者】 館山評議員
- 【公開・非公開の別】 公開
- 【傍聴人】 なし
- 【配付資料】 評議会次第
- ・資料1 出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律の概要について
 - ・資料2 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策（概要）
 - ・資料3 日本語学校に所属する外国人留学生へのアンケート調査の実施について
 - ・資料4 図書館テーマ展示の実施結果について
 - ・資料5 ドイツ・ヴリーツェン市学生交流事業の実施結果について
 - ・資料6 多文化共生意識の啓発、国際理解の推進に関する事業実績及び平成31（2019）年度の事業実施予定について

1 開会

《資料確認》
《小浦部長挨拶》

2 報告事項

評議員

- ・次第の2、『報告事項』について、3つ目の「図書館テーマ展示の実施結果」までを事務局

より報告をお願いします。

事務局

- 資料1、2、3、4を用いて説明。

評議員

- 資料1から4の説明に対して、意見はあるか。

評議員

- 図書の展示についての感想になるが、私の知っている外国人の中には、国籍は中国だが、文字を持たない民族の人がいる。例えば、チワン族はベトナムと中国の国境付近に千数百万人いるそうだが、文字を持っていない。自分たちの本を持っていないため、昔の歌も歌えなくなってしまうこともあるそうだ。図書館は文字を持っていることが前提となっているが、文字を持っていない人への配慮も将来的にはできると良いのではないか。

評議員

- アンケートの結果について、回収率が30%程度となっているが、いつもこの程度なのか。

事務局

- プランの改定前に行った外国人市民アンケートの回収率は、約20%。今回も各校にお願いさせていただいたが、学校によっては、授業の中で実施したり、または休み時間に学生を集めて実施していたため、学校によって回収率にばらつきがある。

評議員

- 政府が行っているアンケートなどでも3割を切るものを製造業で繰り返し経験している。今回の数字は決して低いものではないのではないか。

評議員

- 日本人で投票率が30%ということもあるため、同じような感じだろうか。

事務局

- 日本語学校にお願いした際に、初級の学生はこのアンケートに回答できないとの話があった。859人を対象としているが、その中の100から200人程度は日本に来たばかりで、英語

併記をしても読めないと聞いている。各校で判断をしてアンケートに答えさせていないこともある。

評議員

- ・入管の規則では、半年間自国で日本語学習することを必須としているらしいが、実際にはひらがなも知らない学生もいるので、アンケートに答えることができない留学生は決して少なくない。

事務局

- ・そのため、内容も最初予定していたよりもボリュームが減っている。学校側からも、回答が難しいため、ボリュームを減らしてほしいとの要望もあった。

評議員

- ・アンケートの9番目の問いで、「八王子市からの情報はどうやって知りますか」については、とても興味がある。現在まとめているところということだが、どのような手段で把握したのか。

事務局

- ・今回のアンケートは、基本的に回答を選ぶ形式にしている。この問いであれば、1. 八王子市のホームページ、2. 外国人向け情報誌「Ginkgo」3. 外国人のためのくらしの便利帳、4. 広報「はちおうじ」、5. 八王子市メール配信サービス、6. 八王子市Facebook・Twitter、7. 八王子国際協会のホームページ、8. 八王子市からの情報は見たことがない、9. その他の中から、いくつでも○を付けて良いという形式で実施している。まだ、集計中のため、最終的な結果は出ていないが、取りまとめをする中で、「8. 八王子市からの情報は見たことがない」を選んでいる方が多い印象がある。

評議員

- ・最初の遠藤評議員の意見を少し補足していただけないか。

評議員

- ・意味合い的には、漫画とか絵本とか、文字ではなく、見て楽しめるものはどうか。

評議員

- ・今回の展示の対象は、広く市民にということであるため、外国人の方も対象である。外国人向けを強調するのであれば、多言語図書ということも考えられる。より多くの人に見てもらうという意味では、絵本などは大事な要素である。

評議員

- ・今回スペースが取れなかったなど、いろいろな事情があったと思うが、漫画とか、「同級生は外国人!？」などの1コラムをパネルで見せるなどできると、啓蒙しやすいのではないだろうか。展示の2段目、3段目は表紙が見えるように展示されていたが、背表紙ばかりではなく、表紙も見える形での展示もできると見やすい。絵、絵本、漫画は、絵の部分を見せることができれば、見てくれる人がいるのではないだろうか。そこから興味のある方は、もう少し難しい本とか、どのような考え方があるのかとか手に取ってくれるのではないだろうか。

評議員

- ・展示のディスプレイは図書館の職員が行ったのか。

事務局

- ・そのとおり。

評議員

- ・展示の横にぶら下げているのは多文化共生推進プランか。

事務局

- ・多文化共生推進プランの中の八王子市の現状の部分。

評議員

- ・ある本を推したいのであれば、本屋でもそうだが、裏に書いてある概要などを読んで興味を持つこともある。表題が難しい本だと手を出しにくいので、中身を要約したものを花輪評議員の意見のようにすると良いではないか。

評議員

- ・娘の学校の図書室では、最近の学生があまり本を読まないため、要約が書いてあるポップを作っている。貸出し冊数が12冊はあまりに少ない。

評議員

- ・このような企画が続くようであれば、皆さんの意見を盛り込むと良いのではないかと。最近では、映像やDVDもあり、図書館で見ることができる。他に意見はあるか。資料1、2については、国会を通ったが、まだ具体的な内容は示されていないとのことだった。この評議会で議論してきた内容が資料2に載っている。この評議会で先進的な議論ができていたことだろう。

評議員

- ・技能実習生が増えることで、その分留学生が減らされていることはないだろうか。

評議員

- ・新しい入管法では、母国で大学を卒業して少し日本語ができれば、特定技能などを申し込める可能性がある。詳しい動きはないが、ベトナムの企業では、採用者に日本語を勉強させ、日本に送るところもある。留学ではなく、そのような人も増えている。

評議員

- ・学生は週28時間しかアルバイトができないため、学費を払うことで精いっぱい。

評議員 シュレスター

- ・そのように日本語を勉強して申請する人のなかで、数%しか実際には来られないところもある。目的が勉強ではなく、アルバイト目的の人もいるのではないだろうか。

評議員

- ・そのような学生もいる。実際に、カンボジア人の学生で、勉強目的で来ていない学生を毛嫌いしていた子もいた。

評議員

- ・教育現場でも、外国人の子どもがいないと、授業のレベルやペースが落ちてしまうこともあるため、周りの人は嫌がることもある。

評議員

- ・時間の都合もあるため、報告事項「ドイツ・ヴリーツェン市学生交流事業の実施結果」以降

じむきょく ほうこく ねが
を事務局より報告をお願いする。

事務局

しりょう およ ちらし もち せつめい
・資料5及びチラシを用いて説明。

評議員

いけん しつもん
・意見や質問はあるか。

評議員

こうえんかい わたし し あ なんにん こうほう み し ひと こんかい たいしやう
・講演会について、私の知り合いでも何人か広報を見て知っている人がいる。今回の対象は、
しょうがくせい おや ちゅうがくせい おや ちい こ おや
小学生の親、中学生の親とか、小さい子どもがいる親とか、なにかあるか。

事務局

ちらし きさい さんか
・チラシにも記載のとおり、どなたでも参加できる。

評議員

ないよう ひる だれむ
・内容が広すぎて、誰向けのものなのかわからない。

事務局

がいこくじん る 一つ も しょうがくせい ちゅうがくせい きょういく たずさ かた こうし がいこく
・外国人にルーツを持つ小学生、中学生の教育に携わっている方が講師なので、外国に
る 一つ も こ おやこ しえん おこな ひと
ルーツを持つ子どもの親子や、その支援を行っている人になる。

評議員

たくじ
・託児はあるか。

事務局

たくじ
・託児はない。

評議員

い おも たくじ むずか たくじ な うし あそ よ
・行きたいと思うが、託児がないと難しい。託児が無くても、後ろで遊んでいても良ければ行きやすい。

評議員

- ・「外国人の防災訓練」について、実施が火曜日では、行ける外国人はほとんどいないと思う。多くの方に来てほしいのであれば、曜日を考慮しないといけないのではないか。

事務局

- ・以前に休日に設定していたが、あまり集まりが良くなかったこともある。平日でもこの時期は留学生も試験が終わっていることもあり、行ける人がいたが、最近では留学生の参加者も少なくなっている状況。

評議員

- ・HIFCでも立川防災館に行った。立川防災館に行った20人のうち、8人くらいが外国人だった。立川防災館に行くのに、電車代、バス代がかかるため、費用がかからない近場にある八王子消防署に行く企画の話もある。

評議員

- ・防災訓練は、町会自治会単位で、小学校等を会場に実施している。そのようなところと協力する方法もある。公園など訓練をする場所があれば、消防署の協力を得て実施できる。

評議員

- ・訓練を休日に実施するのであれば、商工会議所などを通じて、企業で働いている外国人に情報を伝えたりできる。

3 意見交換

評議員

- ・時間の都合もあるため、次第の3 意見交換に進む。まず、資料6について事務局より説明をお願いする。

事務局

- ・資料6を用いて説明

評議員

- ・国際理解教育については、2月または3月に実施の依頼がたくさんあり、例年よりも多い件数

を実施する見込み。

評議員

- ・プランの中では、40の施策がある。この評議会でも何度も言っているが、マイノリティの外国人をサポートすることも大切であるが、マジョリティの市民全体の意識を改革していくことが重要である。市でも2019年度は啓発に力を入れていくとのことなので、記載の内容はもちろん、それ以外でも意見があるか。

評議員

- ・新宿区では、成人式の2人のうち1人が外国人とのこと。自分が支援していた外国人で「成人式に出たいが、着物が無い。着物は着たいが高くて難しい」と、最終的に断念した子がいた。八王子市内でもこのようなことはたくさん生じると思うので、余っている着物の提供など、市全体で支援できると良いのではないかな。

評議員

- ・民族衣装などで出席することはないのか。

評議員

- ・日本の成人式は着物や振り袖のイメージがある。HIFCの新年会の際、会員が寄付した着物を持ち帰った外国人の方は、とても喜んでいた。このような取り組みができると良い。

評議員

- ・どのように広報していくかを考える必要があると思うが、企業で考えると組合がある。企業の組合などで募集をかけると、集まったりすることがある。

評議員

- ・去年の、はれのひ株式会社の件では、市民の方が振り袖を出し合っていた。

評議員

- ・多くの日本人はホームステイをさせない。自分の家が、「狭い」「ごちゃごちゃしている」「恥ずかしい」「人に見せたくない」などの理由で受け入れない。ホームビジットは2時間程度の短時間だが、受け入れる人は毎回同じ人。高齢化も進んでおり、実施も難しくなっているため、市が間に入ってくると良い。

評議員

・長く日本に^{なが}いるが、日本人は日本人^{にほんじん}同士でもあまり家^{いえ}に呼ばない^よと思う^{おも}。

評議員

・日本人のホスピタリティ^{にほんじん ほすびたりてい}やおもてなしは、ほかの東南アジア^{とうなん あじあ}とも異なり^{こと}、特殊なイメージ^{とくしゆ いめーじ}がある。

評議員

・ホームステイ^{ほーむすてい}が難しい^{むずか}のなら、ホームビジット^{ほーむびじつと}から始めると良い^{ほじ よ}。

評議員

・外国語^{がいこくご}（東南アジア^{とうなん あじあ}）の教科書^{きょうかしょ}で、電車^{でんしゃ}で出会った人^{で あ}を家^{いえ}に招待^{ひと}するという内容^{しやうたい}が載^{ないよう}っているものもある。

評議員

・日本人は自宅^{にほんじん じたく}に人^{ひと}を集めてパーティー^{あつ ぱーていー}をするような文化^{ぶんか}が無い^な。さらに、外国人^{がいこくじん}を受け入れ^うるとなると構^{かま}えてしまう。

評議員

・市^しから啓発事業^{けいはつじぎやう}について提案^{ていあん}があったので、皆^{みな}さんから意見^{いけん}はあるか。

評議員

・映像制作^{えいざうせいさく}の内容案^{ないようあん}で、外国人市民^{がいこくじんしみん}の支援^{しえん}をしている様子^{ようす}、外国人市民^{がいこくじんしみん}の支援^{しえん}をしている人^{ひと}へのインタビュー^{いんたびゆー}とあるが、支援^{しえん}をするという考^{かん}え方^{かた}は如何^{いか}なものかと思う。多文化共生^{たぶんかきやうせい}なので、外国^{がいこく}から来た方々^{き かたがた}も市民^{しみん}。一緒^{いっしょ}に暮らす市民^{しみん}としてどうしていくのか。支援^{しえん}をすることよりも、外国^{がいこく}から来た方^{き かた}が八王子^{はちおうじ}でどのように生活^{せいかつ}をされているかを中心^{ちゆうしん}として、支援^{しえん}ではなく、一緒^{いっしょ}に暮らしているという面^{めん}を打ち出^うせると良い^よのではないか。

評議員

・日本語教室^{にほんごきょうしつ}などは、支援^{しえん}であることには違^{ちが}わないのではないか。

評議員

- ・多文化共生なので、取り上げ方を工夫するなど、受け入れる視点を盛り込めると良いのではないかな。

評議員

- ・外国人も頼ってばかりではダメ。自分がどのように日本で生活していくかを考えていかなければならない。

評議員

- ・外国人が自立した生活をしていくことは大切であるため、そのような視点を啓発していくことも重要ではないだろうか。

評議員

- ・対等だとしても平等ではない。

評議員

- ・自助、共助という考え方もある。他の自治体では、同じ外国人グループで助け合ったりしている。支援をしていることは事実であるため、その内容があっても良いのではないかな。

評議員

- ・新宿区や東京都内のキリスト教の教会などでは、フィリピンやパプアニューギニアなどへさまざまな支援をしている。日本語ができなくても英語等でサポートしている。特に、新宿の教会での支援が盛んである。
- ・学校の様子について、幼稚園、保育園や小中学校で、働いている外国人が訪問し、自分の仕事の紹介をする話は良いのではないだろうか。双方にとって良いプログラムだと思う。八王子市に住んでいる実習生へのインタビューなどがあると良い。日野市は工場がたくさんあるため、実習生は多いと思う。八王子市内でも実習生がいれば、インタビューできると良い。

事務局

- ・在留資格でみると、実習生は400~500人程度いる。館山評議員は本日欠席だが、事前にご意見をいただいたので、映像制作に関連する内容を紹介する。「多文化共生意識の啓発については、コンテンツよりもターゲット（誰に見てもらいたいかな）と媒体（どこで見ってもらうかな）の選定が大事。一案としては、外国人市民が増えつつある町会・自治会、また

は入管法改正により外国人材受け入れを検討している事業所向けに作成するのはどうか」というご意見をいただいた。

評議員

- ・映像制作は、外国人の支援ではなく、日本人市民が外国人市民に親しみを感じやすくするための映像であり、ターゲットは日本人であるため、そこを意識してほしい。

事務局

- ・この案が出たのは、プラン改定時の日本人市民へのアンケートの際に、外国人がいるだけでなんとなく不安を感じる、犯罪が増えそうな気がするという意見があったことから、日本人市民がもっと外国人市民を理解しなければならないということがスタートであり、日本人市民向けの啓発を目的としていたため、森茂評議員のおっしゃるとおりである。

評議員

- ・活躍している外国人市民へのインタビューもその側面なのか。

評議員

- ・そのとおり。

評議員

- ・この動画制作の監督は、日本人と外国人のどちらか。

事務局

- ・制作に携わるのは日本人がメインになると思う。

評議員

- ・小学校向けのコンテンツとしても面白いと思う。小学校や中学校の一部ですでに国際理解に関する授業を実施しているが、時間がないけどやりたい学校向けに貸出などができるのではないだろうか。

評議員

- ・ほかの自治体でもこのような動画を作っている話は聞かないため、先進的な取り組みだと思う。八王子から全国に発信できるものになれば良い。法務省が作っている外国人の人権の

ための啓発ビデオが参考になるだろう。

評議員

- ・先ほど、映像のコンテンツで誰を対象にしているかが大事という話があった。啓発事業の内容案で、多文化共生意識啓発パンフレットを作成し、八王子国際交流フェスティバル等で配布とあるが、国際交流フェスティバルに来る人は、すでに多文化共生意識が備わっているのではないだろうか。そこで配布しても効果が薄いため、異なる場所で配布の方が効果的であると思う。

事務局

- ・八王子国際交流フェスティバルでも配布をしたいが、街中で実施されているイベントでブースを設けられたら面白いのではないかと考えている。たとえば、商店街では春になるとイベントを開催することが多いため、テントの一角を使わせていただき、多文化共生のPRのため、チラシや映像を流す機会にできれば良い。国際交流フェスティバルなどには来場されない方にも見ていただくことができ、面白いと思う。

評議員

- ・語呂の良いキャッチフレーズなどがあると良い。

評議員

- ・いちょう祭りでは、国土交通省が啓発をしていた。

評議員

- ・企業へのイベントの案内などを市から行うこともあると思うが、商工会議所に協力してもらおうようにした方が有効だと思う。経営者に直接送ることもしている。イベントの案内もメールで構わないと思うので、そのようなルートを活用できると良いのではないだろうか。

評議員

- ・他に何かあるか。

評議員

- ・図書館での図書の展示のところに関連するが、小さい子ども向けに話会で読み聞かせを

しているようなところで、外国の絵本を外国人ママや外国人の方に読んでもらうのはどうだろうか。大きなカブなどは様々な言語に翻訳されている。小さい子や親が直に触れられるほか、国の話などにも広げることができる。他の市では実施しているところもある。八王子でもそのような企画があればよい。

評議員

・外国人市民の方の活用も重要。読み聞かせをしたいという知り合いの方もいるため、先ほどの話のように、外国の話、日本の話などの読み聞かせをする企画があると良い。

評議員 森茂

・意見交換は、これで終了となります。今回は、このメンバーで行う最後の評議会になるので、一人ずつ感想などをお願いします。

評議員

・様々な面で勉強させていただいた。これからも外国人が入ってくるため、その対応が必要となってくる。自分が日本に来て以降、多文化共生の面で大きくは変わっていないと思う。自分が来日したときに比べて、外国人がここ最近増えているが、日本人の意識はあまり変わっていない。多文化共生を浸透させていくためには、学校での教育の中で次世代を担う子どもたちへの啓発や支援が大事だと思う。学校教育の中に、多文化共生を学ぶ教科があるかどうかはわからないが、親世代の考え方があまり変わっておらず、子どもはその背中を見て育つため、教育の中で多文化共生を浸透させていく必要がある。高齢社会になっていく中で、外国人の受入れを国が進めていっているが、外国人が増えると犯罪も増えるという否定的な意見も含め、いろいろな意見がある。

評議員

・教育に携わっているので補足するが、多文化共生という教科は無いが、様々な教科の中で、国際理解や多文化共生を取り扱っている。新しく道徳が教科になるが、その中に大きな柱として国際交流・国際理解が入っている。先生がどのように教えていくかが重要となるが、学校教育でも少しずつ取り入れられている。外国人が増えると犯罪が増えるというのは幻想。少し前に新宿区が調査をしたが、新宿区では日本人の犯罪率の方が高い結果となった。外国人が増えるから犯罪が増えるということではない。

評議員

- 途中からの参加となったが、ここで聞いたり、発言したことで、外国人に関連するニュースなどの内容が理解できるようになった。20年ほど前に、子どもが学校に通っていた頃、留学生を3か月くらい受け入れたことがある。当時は、そのカナダからの留学生をわがままだと感じ、そのような教育を受けているのかと思ったが、後で考えてみると、単純に若いだけ。外国人だからということではなく、日本人の年頃の女の子とあまり変わらない。理解できれば、問題ないのではないだろうか。世界では、宗教等でいろいろあるが、どのような考え方なのかを理解できれば、仲間として受け入れられるのではないだろうか。

評議員

- 経営者という立場で参加をさせていただいたが、大変参考となった。会社に韓国と中国出身の社員が入社したが、二人とも辞めてしまったという話を以前にさせていただいたが、実は、昨年6月から中国人が1名入社し、今年の4月までの間に中国人1名とアメリカ人1名の入社が決まっている。アメリカ人の方はすでに来日して日本語を勉強しており、就労ビザの申請中で3月から働く予定である。中国人の方は留学生で、九州の大学に通っており、4月にこちらに来ることになっている。3年間、多文化共生の話を聞いた中で、今回入社する外国人の方は辞めないでいただけるよう、自信を持って対応ができる。独身の方が結婚したり、母国から奥さんを連れてくる際に問題が生じることがある。それらの解決を市だけに任せるのではなく、会社としても支援をしていくことが必要だと考えており、プランの中にある施策を参考にさせていただこうと思っている。

評議員

- 市長から任命されたときはとても嬉しかった。私の妻は親日国の出身ということになっているが、母国の夜間中学で反日の教育を受けている。その影響で、日本人の方に良くしてもらっても仲良くなるとうはしない。教育は大きな影響力を持つため、逆に大きな期待も持てる。絵本の中には、多言語に翻訳されているものや世界的に評価を受けているものなど、良い内容のものもあるため、教材として活用できると良いのではないだろうか。

評議員

- 最初に参加させていただいたときは、お腹が大きなときだった。そのときの娘が明日5歳の誕生日なので、改めて年月を感じた。いろいろ勉強させていただくうちに、自分でもやりたいと思うようになり、取り組んできた。今は子育てが忙しく、あまり携われないが、今後もゆっくりとでも携わっていきたい。入管法も変わり、激動の時代となっていくかもしれない。インターネットの情報では、入国してくる外国人の方に日本語

教育を徹底させようという動きもあり、国会で法案化させようという話もある。もし、そのような法案が通り、予算が下りてきたときには、出産したばかりの1歳未満のお子さんを持つ外国人ママは現状、日本語教育を学べる機会がないため、そのような方々も支援できるようにしてほしい。

評議員

・2018年度からの参加のため、2回ほどの参加となる。ボランティアからこの世界に携わるようになった。HIFCの立ち上げ時から30年以上取り組んできている。外国に行った際には、この国は外国人の対策をどのように行っているのかを気にしている。移民国家のアメリカやオーストラリア、ドイツの施策が進んでいるほか、日本でも多くの人が多文化共生について本を書かれたりしている。そのようなものを参考にすることは必要。さきほどのマダワラ評議員の話で、子どもがいるお母さんの日本語支援が足りていないとのことだが、小中学校の児童生徒のための学習支援などを八王子国際協会で行っているが、就学前の子どもの支援ができていない。八王子国際協会では手一杯で来ていないが、ほかに実施できる団体もない。そういうところは、多文化共生の先進国であるアメリカなどの取り組みを学ばなければならない。日本には、日本の文化や歴史があり、村社会など小さなコミュニティがある。いい部分は移民国家から学ぶ必要があるが、日本だからできる取り組みがある。外国人を受け入れ、一緒に生活できれば良いと思う。八王子くらいの規模の国家も世界にはあるため、山もあり、自然豊かな八王子らしさを活かした取り組みができれば良いと感じている。

評議員

・あつという間に3年間が過ぎた。評議会に参加できたことは誇りで、自分でも勉強したし、興味あることについて皆さんと意見交換ができて良かった。八王子市がさまざまな多文化共生施策に取り組んでいることを知り、より安心して住むことができた。ヨーロッパなどは国同士が陸続きだが、日本は島国で海に囲まれているため、独自の文化や歴史がある。幼稚園などに通う3、4歳の頃から教育しないと、多文化共生は実現できない。日本に来て15年くらいになるが、シュレスタ評議員と同じような印象がある。企業の中にも多文化共生はあまり無い。日本では、日本人グループと外国人グループに分かれてしまう。外国人を信用して、仕事をさせることができるかどうか。メディアの取り上げ方も正しくなっていないと、外国人に対して悪いイメージを持ってしまう。幼稚園、保育園、小中学校に行き、外国人の紹介、外国人が行っている仕事を紹介することをやっていきたい。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 3年間、成長できた。昨日、日本に来て20年を迎えた。この20年の間に、日本は少し変わってきた。自分も来たばかりの時に、たくさん支援してもらって自立できた。日本社会に溶け込む力がついてきた。従妹はアメリカに住んでいて、2人の子育てをしているがあまり困っていないという。上の子は障害を持っているが充実した支援があり、生活しやすいとのこと。自分は仕事でも子育てでもたくさんの困難を乗り越えてきたが、マイナスではないと考えている。この経験を活かせば良いと感じる。自分は集団生活が苦手。昨年H I F Cの運営員に誘われた際に良い機会だと思い務めたが、みんなと一緒にやることを楽しく感じた。日本人の特徴の1つに集団がある。それは良い面もあれば悪い面もある。自分は良い面を見つけることができ、楽しめた。これからも少しずつ勉強したり、視野を広げて、もっと日本で生活しやすいように頑張っていく。

ひょうぎいん
評議員

- ・ これで本日の議題はすべて終了となる。ご協力ありがとうございました。最後に、事務局から事務連絡をお願いします。

5 事務連絡

- ・ 今後の予定について

< もりもぎちようあいさつ >
《森茂座長挨拶》
< しみんかつどうすいしんぶちようあいさつ >
《市民活動推進部長挨拶》

6 閉会